

2025年大阪・関西万博決定！ 成功に向け踏み出す一歩

2018年11月23日、フランス・パリでの博覧会国際事務局(BIE)総会で、2025年国際博覧会(万博)の開催地が大阪・関西に決定した。直前まで続けた政府・自治体・経済界が一体となったオールジャパンでの活動が誘致実現につながった。人類共通の課題解決に向け、世界の英知を集め、先端技術を駆使して新たなアイデアを創造・発信する場となる大阪・関西万博。1970年以来55年ぶりに大阪で開催する万博を成功させるべく、引き続きオールジャパン体制で準備を進めていく。



オールジャパンで勝ち取った万博

2018年11月に開催された博覧会国際事務局(BIE)総会。最終日の23日、2025年国際博覧会(万博)の立候補国である日本、ロシア、アゼルバイジャンがBIE加盟国に対し、最終のプレゼンテーションを行った。日本は安倍晋三 内閣総理大臣のビデオメッセージ、世耕弘成 経済産業大臣や小川理子 パナソニック執行役員等によるスピーチなどを通じて①SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)達成に貢献

する万博にすること、②参加国と「共創(Co-creation)」する万博にすること、③安心安全で快適な万博にすることを強調するとともに、大阪・関西は世界を歓迎する準備ができていることをアピールした。

その後、加盟国による投票が行われ、日本はロシアとともに進んだ決選投票で、92対61とロシアを上回り(表)、大阪・関西開催が決定した。これまでの国内の機運醸成や海外へのプロモーション活動、さらには総会の直前までパリで行ったBIE加盟国の関係者に支持を働きかける活動など、政府・自治体・経済界が一体

となったオールジャパンでの取り組みが実を結び、誘致が実現した。

表 投票結果

	1回目投票	決選投票
日本	85	92
ロシア	48	61
アゼルバイジャン	23	—
棄権	—	2

2025年大阪・関西万博の成功に向けて

○万博を通じて「いのち輝く未来社会」へ

大阪・関西で開催される2025年万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。「人」にフォーカスし、幸福で健康な生き方と、それを支える持続可能な社会・経済の未来像を示し、Society 5.0を鍵としたSDGsの達成に貢献する万博とする計画である。SDGs達成への貢献という訴えは、誘致に際しても国際的に高く評価された。

そしてコンセプトは「未来社会の実験場」。万博を機に新たなアイデアが続々と生み出され、社会実装に向けて試行される場とするため、実験的なプロジェクトを推進する仕組みを設けるとともに国内外から新たな人材を登用するなど、イノベーションが創出される工夫を凝らす必要がある。こうしたことから、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを万博開催前から立ち上げ、人類共通の課題解決に向け、世界の英知や先端技術を集め、新たなアイデアを創造・発信することが予定されている。

2019年1月25日には、経済産業省を事務局とする「大阪・関西万博具体化検討会」（座長：古賀信行 日本経済団体連合会審議会議長）が設置された。テーマの具体化のほか、開催計画の基本的な方向性に関する検討を進め、2019年内をめどにBIEに提出する予定の登録申請書に反映することとなっている。

○2025年日本国際博覧会協会の設立

さらに1月30日には、一般社団法人2025年日本国際博覧会協会が設立された。事務局を大阪市内（大阪府

万博は「国際社会が抱える共通の課題」の解決に貢献する場に

近年、万博の位置づけは大きく変わってきている。20世紀の万博は、未知のものや先端技術と出会い、近未来の疑似体験することに重点が置かれていたが、21世紀に入ってからの万博は、都市問題、食料問題など「国際社会が抱える共通の課題」の解決に貢献し、共感・共創のムーブメントをつくる場となっている。

2025年大阪・関西万博（計画）

会 期：2025年5月3日～11月3日（185日間）
 開 催 地：大阪府大阪市夢洲地区
 テ ー マ：いのち輝く未来社会のデザイン
 （Designing Future Society for Our Lives）
 サブテーマ：多様で心身共に健康な生き方、
 持続可能な社会・経済システム
 入場者想定規模：約2,800万人（うち海外から350万人）



経済産業省作成

2010年上海国際博覧会

環境と調和した都市・生活の実現に向け、都市問題、環境問題等の解決策を提示

会 期：2010年5月～10月
 （184日間）
 開 催 地：中国・上海
 テ ー マ：より良い都市、
 より良い生活
 入場者総数：約7,308万人

2015年ミラノ国際博覧会

食料をめぐる人類共通の課題とその解決策や貢献策を模索し、その方向性を提示

会 期：2015年5月～10月
 （184日間）
 開 催 地：イタリア・ミラノ
 テ ー マ：地球に食料を、
 生命にエネルギーを
 入場者総数：約2,150万人

2020年ドバイ国際博覧会（計画）

より良い世界を構築するため、協力やパートナーシップが持つ力の重要性を提示

会 期：2020年10月～21年4月
 （173日間）
 開 催 地：UAE・ドバイ
 テ ー マ：心をつなぎ、
 未来を創る
 入場者総数：約2,500万人（見込み）

咲洲庁舎)に置き、万博開催に向けた準備をスタートさせた。会長には中西宏明 日本経済団体連合会会長、副会長には松本正義 関経連会長や松井一郎 大阪府知事などが就任している。今後は本協会が中心となり、BIEへの登録申請や基本計画策定、会場整備、国内外からの出展参加招請、資金計画策定・資金確保、実施運営等の業務を行う。

関西・日本では、2019年以降、G20大阪サミットやゴールデン・スポーツイヤーズ、2025年万博など国際的なイベントやプロジェクトが続く。関西・日本のさらなる発展につなげるべく、引き続きオールジャパン体制で万博成功に向けて準備を進めていく。

(産業部 中西康真)

2025年日本国際博覧会協会 役員

会 長	中西 宏明	日本経済団体連合会会長
副 会 長	松本 正義	関西経済連合会会長
(順不同)	尾崎 裕	関西商工会議所連合会会長・大阪商工会議所会頭
	黒田 章裕	関西経済同友会代表幹事
	立石 義雄	京都商工会議所会頭
	家次 恒	神戸商工会議所会頭
	三村 明夫	日本商工会議所会頭
	小林 喜光	経済同友会代表幹事
	松井 一郎	大阪府知事
	吉村 洋文	大阪市長
	井戸 敏三	関西広域連合長

今後のスケジュール(想定)

2019年内めど	登録申請書のBIE提出
2020年6月	BIE総会(登録申請書の承認) →正式な参加招請の開始
2025年5月3日～11月3日	万博開催

万博の新しい見方 ～誘致活動が教えてくれたこと

2025日本万国博覧会誘致委員会事務局事務総長
関西経済連合会常務理事

いちのき まなつ
櫛 真夏



万博誘致の成功は、皆さまにご協力いただいた誘致活動に加え、ビジネスや文化交流などこれまでの日本のさまざまな活動に対する海外からの評価が決め手となりました。まずは「日本の皆さまおめでとうございます」と申し上げたいと思います。

事務総長として約1年半誘致活動に携わるなかで、万博や日本・関西に対する新しい発見がいくつもありました。誘致委員会のミッションは、①国内の機運醸成、②BIE加盟国への日本支持の働きかけの2つでした。①は関西地域から始めました。経済界の関心は高い一方、一般の方々への浸透はゆっくりでしたが、1970年の大阪万博を体験した方からはご意見をいただくことが多く、万博への特別な思いを感じました。②については、各国に対し東京の大使館・本国政府・パリなど欧州駐在のBIE政府代表と3点から働きかけて日本への支持を固める戦略と、「決選投票では日本に1票を」という呼びかけを最後まで行ったことが奏功しました。

私がお阪・関西の魅力として伝えたのは文化や歴史、自然、食、人といった多様性です。「多様性の中で豊かに生きるすべを体験するという万博のめざすところと大阪・関西の土地柄はとてもマッチします」との説明

に多くの方が共感してくれました。そして100カ国の方と120回面談するなかで実感したのが、「自国の産品を売り出す窓口」「投資を呼び込む窓口」「観光客を呼び込む窓口」というように、国により万博に求めるものが千差万別だということです。その多様なニーズに応えられる懐の深さが日本にあることや、想像以上に日本のファンがいたことはうれしい発見でした。ピカチュウとハローキティも誘致特使として、他の立候補国にはない、日本のソフトパワーのアピールで大いに貢献してくれました。

誘致活動から万博は始まっている——ある方の言葉です。2025年の開催に向け、皆で議論し活動していく過程こそが万博の本質なのかもしれません。近年、万博の位置づけは各国の進んだ技術の展示場から、世界の知恵や知識を持ち寄り人類の共通の課題を解決する場へと変わってきています。2025年の万博でも最新技術が紹介されるでしょうが、それは人を支える道具に過ぎません。あくまで主役は「人」です。世界から集まった知恵や経験そして皆さんの思い出がレガシーとなるような、世界の人々の幸福につながる、日本でしかできない万博にしたいですね。皆さまもぜひ積極的にご参加ください。

2017年

- 3月27日 2025日本万国博覧会誘致委員会 設立 ①
- 4月24日 BIEに対し、2025年国際博覧会開催国への立候補表明文書を提出
- 6月 7日 2025日本万国博覧会誘致ロゴマーク 決定
ロゴマークを活用した万博誘致PRをスタート
- 6月14日 BIE総会にて第1回プレゼンテーション
- 6月10日～9月10日 アスタナ国際博覧会における日本支持要請活動 ②
- 8月24日～25日 アフリカ開発会議(TICAD)閣僚会合における日本支持要請活動(モザンビーク)
- 9月25日 BIEにビッド・ドシエ(立候補申請文書)を提出
- 11月15日 BIE総会にて第2回プレゼンテーション
- 12月18日 #thinkexpo2025「未来社会デザイン会議」プレゼンテーション
2025年万博の誘致実現に向けた決起集会 ③



①



②



③

2018年

- 3月 5日～9日 BIE調査団の来日 ④
- 5月31日～9月19日 #thinkexpo2025「未来社会デザイン会議2nd」
- 5月～8月 #thinkexpo2025「SUCCESS-Osaka Future Design」
(留学生によるプレゼンテーション)
- 6月13日 BIE総会にて第3回プレゼンテーション
- 6月29日、7月11日 在京大使向け説明会(現地視察会)
- 8月25日～26日 #thinkexpo2025「みんなの未来フェスティバル」
- 9月15日～17日 Social Innovator's EXPO for 2025—未来社会を考える3日間
- 10月 9日 万博誘致フォーラム(パリ)
- 10月22日 ジャポニスム2018「奈良・関西のタベ」(パリ)
- 11月23日 BIE総会にて2025年万博の大阪・関西開催決定 ⑤



④



⑤

当会の主な活動

海外プロモーション

- ◆あらゆる機会を活用した日本支持要請活動⇒150カ国以上に働きかけ
 - ・ BIE総会やアスタナ国際博覧会、海外出張、海外要人の招聘、大使・総領事との面談などあらゆる機会を活用
 - ・ 松本会長は4回のBIE総会出席含めパリを6回訪問
 - ・ 海外経験豊富な民間人1名が万博誘致特使として世界各国を訪問(総移動距離は10カ月間で地球10周分)
 - ・ パリに専任担当者1名が常駐し、欧州駐在のBIE政府代表等に働きかけ
 - ・ 商社等の現地代表50カ国68名が2025日本万国博覧会誘致委員会エグゼクティブ・アドバイザーとして活動

国内機運醸成

- ◆企業、従業員等の参加・協力による賛同拡大
 - ・ 賛同者は約134万人
 - ・ 誘致活動への協賛企業・団体は約290
 - ・ 誘致委員会法人会員は約6,000社
- ◆ロゴマーク等を活用した機運醸成活動
 - ・ 鉄道ターミナル、空港等で、ポスター、サイネージ、車両へのラッピング等を活用したPRを実施
- ◆2025年大阪万国博覧会を実現する国会議員連盟総会、自由民主党2025年大阪万博誘致推進本部会合等における活動報告
- ◆経団連、関西広域連合との意見交換、西日本経済協議会での決議採択、関西財界セミナー宣言採択 等
- ◆万博誘致を通じたSDGsの推進
 - ・ #thinkexpo2025「未来社会デザイン会議」、#thinkexpo2025「未来社会デザイン会議2nd」
万博テーマとかかわりの深いSDGsの達成に向け、若手社員が新規事業のアイデアを発表
 - ・ #thinkexpo2025「SUCCESS-Osaka Future Design」
若手社員の協力を得て、留学生が母国の社会課題解決につながる事業計画を発表
 - ・ #thinkexpo2025ウェブサイト、車内刷りポスターの制作